



株式会社 空間創研
Kukan-Soken Co.,Ltd.

技術事例

第23回全国都市緑化おおさかフェア会場 「林のゾーン」

DATE | H16~H18
PLACE | 大阪市中央区
CLIENT | 国土交通省近畿地方整備局、他
CONTENTS | 基本構想・基本計画・基本設計・実施設計

造園作品選集 2008 掲載

丘陵地や山林等のまとまった自然環境が皆無に近い大阪市では、大阪城公園のような公園の森はかけがえのない貴重なものです。しかし、これらだけでは不十分なはいうまでもありません。規模は小さくとも、都市のオアシスとなる豊かで美しい樹林や水辺等の自然的空間を、市民が身近で接し得るように市内の随所に整備することが、今後の都市環境・緑化の重要な課題と考え、今回はそのモデルの一つとして提案したものです。

「林のゾーン」は、主催者(大阪市)の展示である「華の風景林」と国土交通省の出展である「こもれびの庭」に分かれ、「華の風景林」はさらに、「花づくしの景」と「彩りの風景」に分けられます。「花づくしの景」は、大阪の町衆が花を咲かせた元禄文化の文化思潮をベースにした百花繚乱の景です。同時期に開花する中高木ー低木ー草花の花の競演による景を3月下旬から5月中旬にかけて次々と展開させるもので、従来にはみられない新しい花の景となっています。

「彩りの風景」は、ケヤキクスノキ等のすっきりした木立ちと、草花・地被による彩りの豊かな林床との対比による明快で美しい林の風景を創出しました。植栽等の作業にあたっては、若年層から高齢者まで幅広い市民が参加する「はなびと千人プロジェクト」を提案・運営しました。これは、今回のフェアを契機に40年前の市民による「森」を再び、市民の手によってさらに「美しい森」とすることを旨としたもので、園芸講習会と現地での草花植栽をセットにして、会期中を含めて千人を超える市民の参加を見ました。「こもれびの庭」は、樹林を活かすとともに、自然再生技術、環境共生技術を随所に取り入れた一種の廻遊式庭園となっています。木陰にアートを配した広場空間である「こもれび広場」を中心に、水辺や里山の自然を再生した「水の庭」と「大地の庭」、空へ続く草原をイメージした「空の庭(エコホールの屋根)」等で構成し、会期中は、エコホールを中心にパネル展示による自然再生技術の紹介や、市民参加イベントで好評を得ました。

